妻の職業別出産力調査
結果概說（一）

島村俊彥

目次

一、はしがき
二、妻の職業の從業時期別出産力
三、妻の職業の種類別生産力
四、妻の職業の種類及び從業期間別生産力

一、はしがき

職業と出産力との間に密接な關係の存することは既に一般に認められてゐる處である。然しながら職業と出産力とが如何なる意味に於て相關聯してゐるかといふこと、即ち職業と出産力との本質的な關係、ひいては職業別の出産力の差違の眞因如何といふ根本的な問題は勿論のこと、職業が出産力に影響を及ぼすものとせば其の程度は現實に何程のものであるかといふ現象的側面の調査研究も決して十分に果されてゐるとは云ひ難い。否寧ろ今後の研究に俟つべき部分が多いといつても決して過言ではないであらう。

抑、人口の維持發展が民族、國家の存立繁榮にとつて不可缺の要件であることは今更述べる迄もないが、人口の維持發展の一要因たる出生が職業と密接なる關聯を有するとするならば、一國人口の職業別構成の如何は直ちに民族、國家の隆替に密接なる關聯を有つこととなる。斯くて人口の維持發展、ひいては民族、國家の存立繁榮の見地から一國人口の職業別構成に對し深甚なる考慮を拂ふことが必要とせられる。一國人口の職業別構成の如何は人口を左右する諸要因中重要なもの〻一つであり、この側面を無視しては眞に有效なる人口政策は樹立し得ないものと考へられる。

勿論一國人口に於ける出生乃至は死亡に影響を及ぼす要因としては職業別構成の外に種々のものが考へられる。例へば人口の性別構成、年齢別構成、配偶關係別構成、地域別構成等は何れも出生、死亡に影響することによつて人口狀態を左右する處の要因であり、之等の各〻の側面よりする研究が推進められることは等しく必要である。

然しながら近時我國人口の職業別構成が激變しつ〻あることと及びその反面に於て人口の地域別構成が激變せしめられつ〻ある事實に直面して、人口と其の職業別構成、人口と其の地域別構成との關係に關する研究の必要は最も切實となりつ〻あるものと云ひ得やう。

次節以下に於て取扱ふ處は表題の示す如く、職業と人口との關聯に關する問題の全部ではなくして僅かに其の一部たる職業と出産力との關係に關する事項の中のしかも主として社會經濟的側面のみであるが、他の側面よりする研究と相俟つて綜合的人口政策への一基準たるべきものと考へる。

さて職業と出産力との關係に關する研究の途上先づ最初に横たわる障碍は何といつても職業と出産力との關係に關する統計的資料の不足にある。勿論職業と出産力或は一般に人口の諸動態との關係に關しそれぞれの專門

家による統計的研究があり、中には極めて貴重なものもあるが、しかし其等の内の多くのものは、その調査研究の對象が非常に限定されて居つたり或は調査の對象が少數であつたりして資料としての利用價値の大でないものが尠くない。

かゝる事情に鑑がみ、人口民族部では昭和十八年二月職業別の出産力、特に妻の職業と出産力に關する實地調査を行ひ、其の後第一着手として最も概括的な事項のみについて集計及び結果の整理を行ひつゝあつたが、最近其の完了を見たので取敢へず其の概略を發表することゝする。今回發表の分は謂はば速報であり、今後更に調査研究を進め、追々より詳細なる結果を發表して行くつもりである。

結果の記述に入るに先立ち、先づ調査の概要について簡單に述べて置かう。

先づ調査の對象は後に述べる調査地域六十ケ町村に居住する全夫婦で、之等の夫婦に對し町村當局を通じて調査票を配付して其の記入を依頼した。調査地域については今回は主として纖維工業に對し、古くから而も相當多量に女子出稼者を出す地方を選擇するといふ方針を採り、なほ調査上の便宜をも考慮に入れて、結局鹿兒島、新潟、富山、岐阜、島根、長野、滋賀、鹿島、岡山、山口の十縣に於て六十ケ町村を選擇し調査を行ふことゝした。

次に調査票數であるが、配付した調査票のうち記入されなかつたもの及び記入不備のため使用しなかつたものがあつたから實際に集計に用ひた分は約四萬票であつた。

調査事項は之を夫妻關係の事項と出産兒關係の事項に大別出來るが、前者に屬する事項としては、住所、夫妻の氏名、夫妻の出生の年月日、夫妻の初婚再婚の別、結婚年月、夫妻の現在の職業、妻の職業の經歷（職業の種類、從業期間）、夫妻の教育程度、夫婦の所得、農業者の區別、耕作使別を調査し、後者に屬する事項としては出産の順位、男女の別、出産の年月日、死亡又は死産の年月を調査した。

最後に統計表作成の技術上の問題であるが、諸數値は小數以下二位まで計算し第二位を四捨五入することを原則として居るが、特に細かな比較をするために第三位まで算出し、第三位を四捨五入したものもあり、統計表の形式が統一を缺いてゐるが、此の點豫め御斷りして置く。

二、妻の職業の從業時期別出産力

此處に妻の職業の從業時期といふのは、職業への從業の時期を結婚時を基準として分けたものであつて、「結婚前のみ從業せるもの」「結婚前後に跨つて從業せるもの」及び「結婚後のみ從業せるもの」の三つの何れかに分たれる譯である。尚農業を含む二種以上の職業に從事せるものについては、農業に從事した期間は之を除外して從業時期を定めることゝした。一例を擧げれば、結婚時まで農業に從事し、結婚後農業以外の職業に從事した場合には、從業時期は「結婚後のみ從業せるもの」となる譯である。但し農業以外に職業經驗なきものについては、農業の從業時期によることは勿論である。

妻の職業の從業時期を右の如くに定めた場合、從業時期の異なることによつて夫婦の出産力に如何なる差異が見られるかといふことを示して居るのが第一表及び第二表である。

先づ最初に妻の職業の從業時期別に見た夫婦數及び一夫婦當り出生兒を示せば第一表の如くである。

第一表　妻の職業の従業時期別夫婦數及び一夫婦當り出生兒數

從業時期	夫婦數	一夫婦當り出生兒數
結婚前のみ從業せるもの	一二・〇八四	四・〇三
結婚前後に跨つて從業せるもの	一一・三五二	四・〇四
結婚後のみ從業せるもの	一三・一一五	四・一二

第一表について一夫婦當りの出生兒數を見ると、「結婚後のみ從業せるもの」が四・一二人と最大の出生兒數を示し、之に次いでは「結婚前後に跨つて從業せるもの」の四・〇四人が多く「結婚前のみ從業せるもの」は四・〇三人で最も少い。

右の數字のみから判斷すれば「結婚後のみ從業せるもの」の出産力が最も高く、「結婚前後に跨つて從業せるもの」が之に次ぎ、「結婚前のみ從業せるもの」の出産力が最も低いといふことになる。

處で先づ第一に吾々が注意を拂はなければならない事は、以上の三つの夫婦の集團に於て、若し婚姻持續期間別夫婦度數分布が異なるとしたならば、單なる一夫婦當り出生兒數を以て正確なる出産力を比較することが出來ないといふことである。實際問題として三つの夫婦集團に於ける度數分布が完全に一致するといふことは到底考へられないことであつて、其の間多少の差違の有るのが寧ろ正常の狀態と云つて良いであらう。從つて三つの夫婦集團の出産力をより正確に比較するためには、この三つの集團に於ける婚姻持續期間別夫婦度數分布の差違を消去して、その上でそれぞれの出生兒數を比較することが必要となる。第二表の妻の職業の從業時期及び婚姻持續期間別の出生兒數はこの意味に於て第一表に比してヨリ精確なる出産力比較の尺度と謂ひ得やう。

第二表　妻の職業の從業時期及び婚姻持續期間別夫婦數並に一夫婦當り出生兒數

婚姻持續期間	結婚前のみ從業せるもの 夫婦數	結婚前のみ從業せるもの 一夫婦當り出生兒數	結婚前後に跨つて從業せるもの 夫婦數	結婚前後に跨つて從業せるもの 一夫婦當り出生兒數	結婚後のみ從業せるもの 夫婦數	結婚後のみ從業せるもの 一夫婦當り出生兒數
一年未滿	一五二	〇・二二	一一六	〇・二一	七二	〇・二一
一年	五一八	〇・六二	三一七	〇・五三	二四〇	〇・五二
二年	五一七	〇・八九	三〇三	〇・八四	二七〇	〇・七六
三年	四一三	一・三〇	二八〇	一・一〇	二二一	一・〇二
四年	三六八	一・五〇	一九六	一・三六	二〇七	一・二七
五年	四二五	一・九一	二八三	一・六九	二二四	一・六二
六年	四二四	二・二〇	二九三	一・九四	三〇七	一・九〇
七年	四一七	二・五一	三二四	二・一四	三三三	二・一一
八年	四四二	二・九七	三一五	二・四九	三四三	二・四一
九年	三六三	三・一四	三四七	二・六一	二九九	二・五〇
一〇年	三六一	三・五三	二六五	二・八一	二九九	二・八四
一一—一五年	一、八七五	四・一四	一、五〇八	三・六五	一、六二四	三・四八
一六—二〇年	一、七六一	五・三四	一、五九六	四・五五	一、八二三	四・四八
二一—三〇年	二、三五一	五・七二	二、六九四	五・二一	三、三〇七	四・九八
三一—四〇年	一、一六五	五・六九	一、六六一	五・四一	二、二四一	五・二五
四一年以上	五三二	五・六八	八五四	五・七三	一、三〇五	五・四六

第二表について妻の職業の從業時期別一夫婦當り出生兒數を各婚姻持續期間について比較してみると、先づ「結婚前のみ從業せるもの」の一夫婦當り出生兒數は有ゆる婚姻持續期間を通じて常に「結婚後のみ從業せるもの」の一夫婦當り出生兒數よりも多い。また「結婚前のみ從業せるもの」の一夫婦當り出生兒數を「結婚前後に跨つて從業せるもの」の一夫婦當り出生兒數

と比較すると、婚姻持續期間四一年以上を唯一の例外として、前者は常に後者よりも大なる出生兒數を示してゐる。次に「結婚前後に跨つて從業せるもの」の一夫婦當り出生兒數を「結婚後のみ從業せるもの」の一夫婦當り出生兒數と比較するに、僅かに婚姻持續期間一〇年を例外として前者は常に後者よりも大なる出生兒數を示してゐる。それ故吾々は原則として「結婚前のみ從業せるもの」が最大の平均出生兒數を有し、「結婚前後に跨つて從業せるもの」が之に次き、「結婚後のみ從業せるもの」が最少の出生兒數を有するといふ事實を認めることが出來るのである。

然しながら右の事實[illegible]みから一般に「結婚前のみ從業せるもの」の出産力が最大であり、「結婚前後に跨つて從業せるもの」が之に次き、「結婚後のみ從業せるもの」の出産力が最低であると斷定することは勿論出來ない。上記の結果は單に婚姻持續期間を同じくするといふ共通の條件の下に於ける比較に過きず、出産力に影響を及ぼすべき他の諸條件は何等顧慮されてゐないからである。妻の職業の從業時期と出産力との關係の解明のためには更に多くの異なる側面からの觀察が必要であることは謂ふ迄もないが、妻の職業別出産力調査の結果の概説を目的とする本文に於ては其等の掘下げた研究は他日に讓る外はない。

たゞ一言此處で述べて置きたいことは「結婚前後に跨つて從業せるもの」及び「結婚後のみ從業せるもの」の一夫婦當り出生兒數が殆ど例外なしに「結婚前のみ從業せるもの」よりも少いといふ事實の背後には、結婚後子女が生れないか或は寡子であるがために結婚後も職業に從事するものが相當あるのではないかといふこと、即ち「結婚前後に跨つて從業せるもの」及び「結婚後のみ從業せるもの」の二つの夫婦集團の中には本來出産力の低いものが特に澤山含まれて居るのではないかといふこと、換言すれば低出産力が從業時期の原因であるか或は又結果であるかといふ疑問が生ずるといふ一點である。かゝる種類の疑問は統計の解釋に際し屢々遭遇する處のものであるが、其の眞相を解明することも亦極めて困難である。無子或は寡子なるが故に結婚後も職業に從事するのか、結婚後も職業に從事することが無子或は寡子の原因なのであるかといふやうな事柄は今回實施した調査の事項のみによつては解明することは不可能である。この問題の研究は別の機會に讓ることゝするが、此處にこの問題に關聯を有する一二の資料を參考までに掲げて置かう。

先づ無子或は寡子夫婦の割合が問題となるが、こゝには無子夫婦のみについて婚姻持續期間別に其の割合を示して置かう。（第三表參照）

第三表　妻の職業の從業時期及び婚姻持續期間別無子夫婦割合（%）

婚姻持續期間	結婚前のみ從業せるもの	結婚前後に跨つて從業せるもの	結婚後のみ從業せるもの
一年未滿	七八・三	七九・三	七九・二
一年	三八・八	四七・九	四九・二
二年	二〇・五	二七・四	三〇・四
三年	九・九	二二・一	二六・二
四年	一二・五	一九・四	二三・二
五年	九・四	一五・九	一三・八
六年	一一・一	一〇・九	一一・四
七年	一〇・一	一四・八	一二・九
八年	六・三	一四・六	八・二
九年	八・三	一四・一	一四・〇
一〇年	六・六	一二・八	一二・四
一一—一五年	六・八	九・九	一〇・二

一六—二〇年	七・四	八・〇	八・六
二一—三〇年	八・三	九・二	九・二
三一—四〇年	八・二	八・三	九・八
四一年以上	七・五	六・〇	六・五

第三表の結果を要約すると次の如く謂ひ得るであらう。

即ち「結婚前後に跨つて從業せるもの」と「結婚後のみ從業せるもの」の間には餘り明確な差違を認め難いが、この二者と「結婚前のみ從業せるもの」との間には明かな差違が認められる。「結婚前のみ從業せるもの」の無子夫婦割合は僅かな例外(婚姻持續期間六年及び四一年以上)を除けば他の二者に比し、有ゆる婚姻持續期間を通じて最も低く、而もその差違は可成り顯著である。そこで一般に「結婚前後に跨つて從業せるもの」及び「結婚後のみ從業せるもの」の無子夫婦の割合は高いと云つて良い。しかし無子夫婦の割合の高いといふことが從業時期の結果であるか、或は逆に無子夫婦の割合が高いといふことが從業時期の原因であるかは目下の處之を判斷する資料は無い。

次に「結婚前後に跨つて從業せるもの」及び「結婚後のみ從業せるもの」に於ける無子夫婦の割合が「結婚前のみ從業せるもの」に比して高いといふことについては從業時期別の結婚年齢の差違が關係してゐるのではないかといふことが想像されるので左に從業時期別の初婚者年齢度數分布を掲げて置かう。尚結婚年齢の比較のためには平均婚姻年齢によるのが最も簡便であるが、この計算は今の處出來てゐないので初婚者年齢度數分布によつて大體の傾向を見ることゝしよう。

第四表　妻の職業の從業時期別初婚者年齢度數分布

妻の職業別出産力調査結果概説(一)

初婚年齢	結婚前のみ從業せるもの 夫婦數	結婚前のみ從業せるもの %	結婚前後に跨つて從業せるもの 夫婦數	結婚前後に跨つて從業せるもの %	結婚後のみ從業せるもの 夫婦數	結婚後のみ從業せるもの %
一六歳未滿	一四〇	一・三	三二七	三・三	七一四	六・二
一六歳	二三七	二・三	四五五	四・六	七五九	六・六
一七歳	五〇九	四・八	六九八	七・〇	一、一八九	一〇・四
一八歳	七六〇	七・二	一、一四四	一一・五	一、四二二	一二・四
一九歳	一、三〇一	一二・二	一、一九一	一二・一	一、五八五	一三・七
二〇歳	一、三八〇	一三・一	一、一三〇	一一・四	一、四九八	一三・一
二一歳	一、三五八	一二・九	一、〇四七	一〇・六	一、一七四	一〇・二
二二歳	一、二一九	一一・六	九五七	九・六	八七六	七・六
二三歳	一、〇八九	一〇・三	七二八	七・三	六六五	五・八
二四歳	八二四	七・八	六一六	六・二	四七七	四・二
二五歳	六二二	五・九	五〇九	五・一	三一六	二・八
二六歳	三九六	三・八	三三五	三・四	二五五	二・二
二七歳	二四五	二・三	二四二	二・四	一六四	一・四
二八歳	一四七	一・四	一五五	一・六	一一五	一・〇
二九歳	九〇	〇・九	一一三	一・一	六一	〇・五
三〇歳	六一	〇・六	七五	〇・八	四八	〇・四
三一—三五歳	一三四	一・三	一六二	一・六	一三六	一・二
三六—四〇歳	二三	〇・二	三一	〇・三	一九	〇・二
四一—四五歳	一一	〇・一	八	〇・一	八	〇・一
四六歳以上	三	—	一	—	二	—
合計	一〇、五四九	一〇〇・〇	九、九二六	一〇〇・〇	一一、四八三	一〇〇・〇

第四表を概觀するに「結婚後のみ從業せるもの」が他の二者に比して最も早婚であるといふことが出來やう。「結婚後のみ從業せるもの」に於ては一九歳で結婚したもの〻割合が他の二つの夫婦集團に比べて可成り高く、反之二二歳以上で結婚したもの〻割合は最も低い。のみならず度數分布の山

が一九歳の處にあり、しかも他の二者の山に比して著しく高いからである。試みに初婚者年齢度數分布を圖表に書いて見ると、この夫婦集團の曲線が最も左方卽ち若年の方に片寄つてゐることが極めて明瞭に分るのである。

次に「結婚前後に跨つて從業せるもの」と「結婚前のみ從業せるもの」とを比較するに前者は後者に比し、一八歳未滿で結婚した者の割合高く、反之一九歳以上で結婚した者の割合が低い。また度數分布の山も前者は一九歳の處にあるのに後者は二〇歳の處にあるので平均婚姻年齢を算出したならば恐らく前者の方が多少とも低く出るであらうと思はれる。

以上の如く婚姻年齢の差違を調べて見ると、極めて大雜把な見方ではあるが、先づ大體「結婚後のみ從業せるもの」が最も早婚であり、「結婚前のみ從業せるもの」が最も晩婚であり、「結婚前後に跨るもの」が兩者の中間にあるものと見て良いであらう。右の判斷にして誤りなしとすれば從業時期別無子夫婦割合の差違と結婚年齢の差違との間には餘り密接な關係は無さそうに思はれる。

三、妻の職業の種類と出産力

こゝに妻の職業の種類といふのは過去に於て最も長期間從事した職業の種類を指すことにする。尙同一種類の職業に二回以上從事せる場合には其の期間は通算することとした。但し農業を含む二つ以上の職業に從事せるものについては農業に從事した期間を除外して職業の種類を決定することとした。從つて農業者として表章されてゐるものは農業以外の職業に從事した經驗なきもののみである。

右の如き方法によつて妻の職業を決定した場合職業の種類別の出産力が如何なる狀態にあるかを示したものが第一表以下の諸表である。先づ妻の職業の種類別夫婦數及び一夫婦當り出生兒數を示せば第一表の如くである。

第一表　妻の職業の種類別夫婦數及び一夫婦當り出生兒數

妻の職業の種類	夫婦數	一夫婦當り出生兒數
女工	八、九二一	三・六七
女工 内譯 紡織工	一、六四二	三・五四
女工 内譯 人絹工	四四五	二・二一
女工 内譯 製絲工	五、五三二	三・九五
女工 内譯 其の他	一、三〇二	三・一四
農業者	一八、六四一	四・二七
敎員	四六六	二・八五
家事使用人	四、九九〇	四・六四
其の他有業者	三、六〇一	三・三七
有業者合計	三六、六一九	四・〇七
無業	三、八三六	三・二八
總合計	四〇、四五五	三・九九

第一表に於て職業の種類名を一夫婦當り出生兒數の多い順に竝べると、家事使用人、農業者、女工、其の他有業者、無業、敎員となるが、最大の出生兒數を示せる家事使用人と最少の出生兒數を示せる敎員との間には、一・七九人といふ著しい開きがあり、また全夫婦の平均出生兒數（三・九九人）以上の出生兒數を示してゐるのは家事使用人及び農業者のみであり、他は何れも平均以下である。次に女工の內譯について、出生兒數の多い順に竝べると、製絲工、紡織工、其の他女工、人絹工の順で、何れも總平均三・九九人以下であり、また製絲工と人絹工との間には一・七四人といふ大きな開きが見られる。

更に女工の内譯を含めて、出生兒數の多い順に職業名を竝べると、家事使用人、農業者、製絲工、紡織工、其の他有業者、無業、其の他女工、教員、人絹工となる。

第一表に示されてゐる處を摘んで次の如く云ふことが出來やう。

家事使用人及び農業者の一夫婦當り出生兒數は最も多く、教員及び人絹工は最も少く、其れ以外のものは兩者の中間にあるが、その中では製絲工及び紡織工の出生兒數は多い方である。全職業中で職業總平均の出生兒數三・九九人以上の出生兒數を示してゐるのは僅かに家事使用人、農業者に過ぎず、他は何れもそれ以下である。殊に教員及び人絹工の出生兒數は總平均に對しそれ〴〵一・一四人及び一・七八人と非常に劣つてゐる。

單なる一夫婦當り出生兒數が出産力比較の尺度として缺陷の多いことは前節で述べた通りである。試みに職業の種類及び婚姻持續期間別夫婦度數分布を見ると第二表の如くなつて居る。

第二表　妻の職業の種類及び婚姻持續期間別夫婦度數分布

婚姻持續期間	女工		女工内譯 紡織工		人絹工		製絲工		其の他		農業者		教員		家事使用人		其の他有業者		有業者合計		無業		總合計	
	夫婦數	%	夫婦數	%	夫婦數	%	夫婦數	%	夫婦數	%	夫婦數	%	夫婦數	%	夫婦數	%	夫婦數	%	夫婦數	%	夫婦數	%	夫婦數	%
一年未滿	一二七	一・三	一六	一・七	七	一・六	五三	〇・九	二九	二・三	一五三	〇・八	一〇	二・二	一九	〇・六	三三	〇・九	三四一	〇・九	三一	〇・八	三七三	〇・九
一年	三九六	四・四	八三	三・一	四五	一〇・二	一八五	三・三	八三	六・三	三九〇	二・一	三	四・五	一三七	二・六	一四四	四・〇	一、〇七八	二・九	一六三	四・二	一、二四〇	三・〇
二年	五三	四・四	九〇	五・五	四二	九・四	一九四	三・五	六七	五・一	三九三	二・一	三三	六・七	一三二	二・四	一五一	四・二	一、〇九一	三・〇	一三三	四・〇	一、二四四	三・〇
三年	三四	三・六	六一	三・七	三	七・四	一八〇	三・二	五〇	三・八	三五一	一・九	三一	四・五	一二五	二・三	一〇四	二・九	九一五	二・五	一二六	三・三	一、〇四三	二・六
四年	三六一	三・三	七六	四・六	四一	九・四	一一三	二・〇	五一	三・九	二七九	一・五	一五	三・二	一二三	二・三	八三	二・三	七一一	二・一	一三五	三・五	九〇六	二・三
五年	二四〇	二・八	八三	五・〇	二七	六・一	一〇〇	二・六	三一	二・四	二五三	一・九	一九	四・二	二四	二・五	九九	二・七	九三四	二・六	一〇四	二・七	一、〇三八	二・五
六年	二三一	二・七	七四	四・五	三〇	六・七	一七六	三・二	三一	二・九	四〇九	二・二	三	四・五	一二六	二・八	一二五	三・五	一、〇二四	二・八	一七八	四・六	一、二〇二	三・〇
七年	二四四	四・二	七九	四・八	二七	八・四	一九一	三・五	五七	四・四	四五六	二・四	三	四・七	一一八	二・四	一二四	三・二	一、〇七四	二・九	一六六	四・三	一、二四〇	三・一
八年	二七七	四・二	六四	三・九	二四	七・八	二二一	四・〇	四八	三・七	四六六	二・五	一六	三・四	一三二	二・六	一二〇	三・三	一、一〇一	三・〇	一五六	四・一	一、二五七	三・一
九年	二二五	三・五	四九	三・〇	二	三・五	二三四	四・〇	三一	二・四	四八八	二・三	二〇	四・三	一二七	二・五	一三一	三・四	一、〇二一	二・八	一三五	四・〇	一、一六六	二・九
一〇年	二〇五	三・四	六九	四・三	一九	四・三	一六四	三・〇	五三	四・一	三八五	二・一	三	四・七	一二五	二・三	一〇一	二・八	九六八	二・五	一〇八	二・八	一、〇三六	二・六
一一―一五年	一五四二	一七・三	三八八	一九・九	六〇	一二・五	九八六	一七・八	一七八	一二・七	二二七〇	一二・二	七三	一五・七	六一七	一二・四	五〇三	一四・〇	五、〇一五	一三・七	五九七	一五・六	五、六一二	一三・九
一六―二〇年	一四九一	一六・八	三三五	一六・八	三三	七・四	九八三	一七・八	三〇〇	一五・四	三四六九	一三・二	五九	一二・七	六二八	一二・六	五四四	一五・一	五、一九一	一四・二	四九八	一三・〇	五、六八九	一四・一
二一―三〇年	一六六〇	一八・八	二三六	一四・五	一六	三・六	一、一六七	二一・一	二五九	一九・九	四五六二	二四・五	七六	一六・四	一、一八九	二三・八	八六一	二三・九	八、三六八	二二・九	六五〇	一七・〇	九、〇一八	二二・三

三一—四〇年	四三〇	四・八	三六	二・二	八	一・八	三八二	六・九	九二	七・一	三,三三九	一七・九	三一	六・七	八四五	一六・九	三四五	九・六	五,〇八〇	一三・九	三七一	九・七	五,四五一	一三・五
四〇年以上	一四五	一・六	八	〇・五	一	〇・二	一二四	二・二	二二	一・七	一,九四〇	一〇・四	八	一・七	四五一	九・〇	一五三	四・二	二,六九七	七・三	二四四	六・四	二,九四一	七・三
合　計	八,九三二	一〇〇・〇	一,六四三	一〇〇・〇	四四五	一〇〇・〇	五,五三三	一〇〇・〇	一,三〇三	一〇〇・〇	一八,六四一	一〇〇・〇	四六六	一〇〇・〇	四,九九〇	一〇〇・〇	三,六〇一	一〇〇・〇	三六,六一九	一〇〇・〇	三,八三六	一〇〇・〇	四〇,四五五	一〇〇・〇

第二表について、一夫婦當り出生兒數の最も少い人絹工の度數分布を見ると、婚姻持續期間一年乃至七年の夫婦の割合は他の職業に比して非常に高いことが分る。特に婚姻持續期間二年及び七年の割合は一〇・一%及び八・四%で前者は家事使用人(二・六%)及び農業者(二・一%)の五倍近く、後者も家事使用人及び農業者(二・四%)の四倍近くの高率を示してゐる。右の如く比較的短かい婚姻持續期間に於ける夫婦の割合が大であるといふことは、反面に於て、比較的長期の婚姻持續期間に於ける夫婦の割合が小であることを意味するから、これが人絹工の一夫婦當り出生兒數の少いことの原因の一部をなして居るものと考へられる。更に一夫婦當り出生兒數の少い教員について見ても、人絹工と同一の事が云へるのであつて、十年までの比較的短かい婚姻持續期間に於ける夫婦割合は非常に高く、例へば持續期間二年をとつて見ると、六・七%で農業者(二・一%)家事使用人(二・四%)の約三倍の高率となつてゐる。

次に一夫婦當り出生兒數の最も多い農業者及び家事使用人について見ると、比較的短かい婚姻持續期間に於ける夫婦割合は有ゆる職業中最も低く、反之長期の持續期間に於ける割合は非常に高くなつてゐる。例へば持續期間二一—三〇年について見ると、農業者の夫婦割合は二四・五%、家事使用人は二三・八%であるが、之に對し人絹工は僅かに三・六%、教員一六・四%に過ぎない。かゝる事情が家事使用人及び農業者の一夫婦當り出生兒數を多からしむる一因をなして居るものと考へられる。

右の例によつて知り得る如く婚姻持續期間別夫婦度數分布は職業によつて可成り違ふから、單なる一夫婦當り出生兒數を以て生産力比較の尺度とすることは不適當であると云はなければならない。そこで職業別の出産力の比較に當つては、之を少くとも婚姻持續期間別に行ふことが必要である。第三表が卽ちその結果を示したものである。

第三表　妻の職業の種類及び婚姻持續期間別一夫婦當り出生兒數

婚姻持續期間	女工	女工内譯 紡織工	人絹工	製絲工	其の他	農業者	教員	家事使用人	其の他有業者	有業者合計	無業	總合計
一年未滿	・二二	・一四	・一四	・二六	・一七	・二二	・一〇	・一七	・二四	・二一	・一六	・二一
一　年	・五八	・四九	・五三	・六〇	・六三	・五三	・四八	・六七	・五九	・五七	・五七	・五七
二　年	・八三	・八〇	・八一	・八七	・八一	・八三	・九一	・九八	・七七	・八四	・八四	・八四
三　年	一・二六	一・三三	一・一八	一・二九	一・一二	一・一二	一・二四	一・二三	一・〇〇	一・一七	一・二九	一・一九
四　年	一・五一	一・五八	一・四三	一・五九	一・二七	一・三六	一・三三	一・四七	一・一三	一・四〇	一・三二	一・三九
五　年	一・八一	一・九〇	一・五二	一・八八	一・四二	一・七二	一・八九	一・八〇	一・七四	一・七七	一・八〇	一・七七

六年	二・一八	二・〇九	一・九三	二・三三	一・九二	一・九二	二・三三	二・〇一	二・〇二	二・〇四	二・〇一	二・〇三					
七年	二・四四	二・四三	二・二七	二・五二	二・二八	二・二一	二・一八	二・三五	一・九一	二・二七	二・一六	二・二六					
八年	二・八二	二・七二	二・五九	二・九八	二・三八	二・五〇	二・六三	三・一六	二・二二	二・六六	二・四〇	二・六三					
九年	三・〇七	二・八二	二・七三	三・二一	二・六五	二・六四	二・四五	二・九六	二・三一	二・七七	二・五五	二・七四					
一〇年	三・三九	三・七二	二・七九	三・五二	二・七五	二・九六	二・三二	三・二三	二・八一	三・一〇	二・九八	三・〇九					
一一—一五年	四・〇五	四・二二	三・五三	四・〇九	三・七一	三・六二	三・〇五	四・一二	三・三四	三・七八	三・五一	三・七五					
一六—二〇年	五・〇三	五・四三	四・〇九	五・一一	四・二〇	四・六二	四・一二	五・四九	四・二〇	四・七九	四・二二	四・七四					
二一—三〇年	五・二一	五・五六	四・六三	五・二七	四・六六	五・二三	四・三七	六・〇一	四・五七	五・二六	四・六二	五・二一					
三一—四〇年	五・二八	四・八七	六・三八	五・四八	四・五三	五・三八	四・六五	五・八八	四・六八	五・四〇	四・四一	五・三四					
四一年以上	五・三〇	五・五〇	—	五・三四	五・二七	五・六二	三・二五	五・七七	四・九三	五・五八	四・九四	五・五三					

第三表について其の顕著な特徴を擧げれば大體次の如く云ふことが出來やう。

先づ農業者の出産力の特徴は短かい婚姻持續期間に於ては、他の職業に比して寧ろ低いが、持續期間の長くなると共に次第に高まり、三一年以上といふ相當長い持續期間となると非常に高い出産力を示して居るといふことである。試みに持續期間二年を取つて見ると農業者の一夫婦當り出生兒數は一・二二人で女工の一・二六人、教員の一・二四人、家事使用人の一・二三人、無業の一・二九人よりも少く、また總平均の一・一九人にも及ばないのである。持續期間が之よりも稍長い一〇年を取つて見ても農業者の出生兒數は二・九六人で女工の三・三九人、家事使用人の三・二三人、無業の二・九八人よりも少く、また總平均三・〇九人にも及ばないといふ狀態で農業者も短かい婚姻持續期間に於ては決して普通に想像される程高い出産力を示してゐないのである。

然るに婚姻持續期間が二一年以上となると其の出産力は次第に高まり、三一年以上となると非常に顕著なものとなつてゐる。試みに持續期間二一—三〇年を取つて見ると、出生兒數は五・二三人で女工の五・二一人、教員の四・三七人、其の他有業者の四・五七人及び無業の四・六二人を追ひ越し、また總平均の五・二一人をも凌駕してゐるのであるが、たゞ家事使用人の六・〇一人には及ばない。尙家事使用人の出産力は非常に高く、農業者は婚姻持續期間一年未滿を除く他の有ゆる持續期間を通じて常に家事使用人以下の出産力を示してゐる。たゞしかし、持續期間二一—三〇年以後に於ける農業者の出生兒數增加の勢ひは至つて旺盛であるが、家事使用人に於ては寧ろ減少しつゝあるといふこと、從つて農業者と家事使用人との出生兒數の差は漸次縮少されて居るといふ點は注目される。

甚だ粗雜な仕方ではあるが、いま假に婚姻持續期間を初期と後期とに、また出産力を高と低に分つとすれば、以上述べたやうな農業者の出産力の上に見られる特色に著眼して、農業者の出産力は初低後高の型に屬するものであると云ふことも出來やう。

次に家事使用人について觀察するに、その出産力は有ゆる婚姻持續期間に亙つて高く、殆ど全持續期間を通じて總平均以上の出生兒數を示して居

るが、長い持續期間に於て特にさうである。持續期間十六年以後に於ては五・五人乃至六人の出生兒數を有し、他の有ゆる職業の上にある。但し持續期間三一―四〇年に於ける人絹工の出生兒數は六・三八人で家事使用人の、五・八八人を凌駕してゐるが、この持續期間に於ける人絹工夫婦の實數は僅かに八に過ぎないから、それが果して人絹工の正しい出產力を示してゐるや否やは非常に疑はしい。人絹工は他の持續期間に於ては極めて低い出產力しか示してゐないから、この三一―四〇年に於ける出產力は恐らく眞實のものではなく、全く偶然のものであると考へられる。

農業者の例にならつて、家事使用人の出產力の特徵を一つの型に當嵌めると大體初高後高の型に入れらるべきものと思はれる。

次は女工であるが、之は婚姻持續期間一五年までは大體家事使用人と同程度の相當に高い出產力を示して居り、殆んど例外なしに農業者を凌駕してゐるが、持續期間一六年以後は常に家事使用人以下であり、また三一年以後は農業者に及ばない。斯樣に、長い持續期間に於ける女工の出產力は家事使用人及び農業者には及ばないが、其の他の職業に比べれば依然として高いから、家事使用人と同樣、初高後高の型に當嵌めて差支へないであらう。

しかし女工も之を更に內譯別に見ると異つた結果が現れて來る。

先づ紡織工の出產力は農業者に比し、婚姻持續期間の短期長期とも一般に著しく高く、略家事使用人に匹敵する。たゞ持續期間一六年以後に於ては家事使用人に比し、また三一年以上に於ては農業者に比して若干の遜色があるが之を全體的に見ると、依然その出產力は高く女工と同樣初高後高型に屬するものと見て差支へない。

人絹工の出產力は持續期間一〇年未滿といふ比較的短期の場合には必ずしも低くない。勿論家事使用人や紡織工には劣るが、大體農業者程度の出產力を示してゐるのである。しかし一〇年以上の比較的長い持續期間について見ると農業者よりも著しく低く、略無業及び其の他有業者に類似し、教員よりも稍高い出產力を示してゐるに過ぎない狀態であつて、出產力型は初低後低に屬するものと見て良いだらう。

製絲工の出產力は一般に極めて高く、有ゆる持續期間（但四一年以上を除く）を通じ斷然農業者の上にある。持續期間一〇年あたりまでは紡織工に比して寧ろ高いとさへ思はれる出產力を示してゐるが一〇年以上に於ては紡織工に比して概して僅かながら劣つてゐる。製絲工を家事使用人と比較すると一一―一五年頃までは餘り差違は無いが二一―三〇年以後では相當に劣つてゐる。また持續期間四一年以上では農業者に劣ることが認められる。しかし製絲工の出產力は一般に高い方であり、初高後高型に入れらるべきものと思はれる。

次に其の他女工について見るに、婚姻持續期間一〇―一六年頃までは大體農業者程度の低い出產力を示してゐるが、其れ以後に於て農業者の出產力がグン〳〵延びるに拘らず、餘り延びないために持續期間の長くなるに從つて農業者との差を次第に擴げ、持續期間一〇年以後は大體人絹工と同程度、無業、其の他有業、及び教員に比べて若干高い出產力を示してゐるといふ狀態で初低後低型に屬するものと見られる。

次に教員は九年未滿といふ比較的短かい婚姻持續期間に於ては農業者に比し一般に高い出產力を示して居り、時には他の有ゆる職業をも凌駕してゐるが、然し一〇年以上の比較的長い持續期間に於ては其の出產力は他の職業に比して著しく低く、僅かの例外を除けば有ゆる職業中の最低位にある。それ故教員の出產力の特徵は初高後低型たる點にあるといへよう。

其の他有業者の出産力は極めて僅かの例外を除き、有ゆる婚姻持續期間を通じ、農業者及び總平均よりも低い。總ての妻が大體姙孕期間を經過したと思はれる處の持續期間三一—四〇年について見ると、この一夫婦當り出生兒數は四・六八人で、之を家事使用人に比べると一・二〇人、農業者に比べても〇・七人といふ大きな開きを見せて居る。從つて其の他有業者の出産力型は初低後高といつてよいであらう。

最後に無業について見るに、比較的短期の婚姻持續期間に於ては左程低くはなく、持續期間七年位までは農業者及び總平均に比し稍高くなつて居る。しかしそれ以後は他の職業に比し相對的に低下し、漸次其の他有業者及び教員の出産力に接近して居ることが認められる。持續期間四一年以上について見ても一夫婦當りの出生兒數は家事使用人の五・七七人及び農業者の五・六二人に對し四・九四人と五人にも達しない狀態である。從つて教員と同じ型の初高後低に入れるのが適當と思はれる。

さて妻の職業の種類別一夫婦當り出生兒數を更に婚姻持續期間別に觀察するといふことは單なる一夫婦當り出生兒數によるよりも精密である反面に於て、各職業の出産力の差違を全體として掴む點に於ては却つて不便であることは止むを得ない。分析が進むに從つて全體的な判斷が困難になり、一得一失を免れない。そこで大多數の妻が姙孕期間を經過するものと思はれる處の婚姻持續期間三一—四〇年に於ける出生兒數が大體職業別出産力の總體的差違を表現してゐるものと假定し、この持續期間に於ける一夫婦當り出生兒數を多い順に竝べると、家事使用人(五・八八人)、製絲工(五・四八人)、農業者(五・三八人)、紡織工(四・八七人)、其の他有業者(四・六八人)、教員(四・六五人)、其の他女工(四・五三人)、無業(四・四一人)となり、家事使用人、製絲工、農業者、紡織工の出産力は高く、其の他有業者、教員、其の他女工、無業の出産力は低いといふことが出來、先に述べた妻の職業の種類別一夫婦當り出生兒數の順位と大體一致することが認められるのである。尚人絹工の持續期間三一—四〇年に於ける出生兒數は六・三八人と異常な値を示してゐるが、之は觀察數の過少に基づく偶然の結果であつて、全持續期間を綜合的に觀察するならば、その生産力が教員に類似せる極度に低いものであることが推測出來る。

以上は婚姻持續期間別に、妻の職業の種類別一夫婦當り出生兒數を觀察したのであるが、しかし同一の婚姻持續期間でも、職業によつて婚姻年齢に差がある場合には、それは必ずしも出産力の尺度として完全であるとは云へない。それ故職業別の婚姻年齢の差違を消去した處の婚姻持續期間別の出生兒數を觀察することがより精密な方法といふことが出來る。勿論かくの如くに分析が次第に緻密となるに從つて、觀察が孤立的となり、全體としてこの職業別出産力を判斷することは段々難しくなることを免れない。しかし今吾々が知りたいと思ふものは先づ全體的、總括的な結果であるから、分析された個々の數値には成可く捕はれないで、出來るだけ概括的な結果を導き出すやうにしようと思ふ。

處で婚姻年齢の區分を如何にするかが問題であるが、出來うれば各歳別にすることが最も良いであらう。しかし今回の調査では調査數の關係から各歳別は餘りに細かに過ぎ、結果が非常に不規則のものとなるので五歳階級に括ることゝした。しかもなほ、その内で實際に使用に耐えるものは二〇—二四歳の分のみであるからこゝでは二〇—二四歳のみについて記述を行ふに止める。

尚妻の内二〇—二四歳で結婚した者の割合を職業別に見ると、女工五三%(紡織工五二%人絹工五九%製絲工五四%其の他女工四六%)農業者四〇

%教員五八%家事使用人五一%其の他有業者四六%有業者合計四五%無業四六%總合計四六%であつて、各職業を通じ大體四〇乃至六〇%位のもの

第四表　妻の職業の種類、婚姻年齢(二〇—二四歳)及び婚姻持續期間別夫婦數並に一夫婦當り出生兒數

婚姻持續期間	女工 夫婦數	女工 一夫婦當り出生兒數	女工内譯 紡織工 夫婦數	紡織工 一夫婦當り出生兒數	人絹工 夫婦數	人絹工 一夫婦當り出生兒數	製絲工 夫婦數	製絲工 一夫婦當り出生兒數	其の他 夫婦數	其の他 一夫婦當り出生兒數	農業者 夫婦數	農業者 一夫婦當り出生兒數	教員 夫婦數	教員 一夫婦當り出生兒數	家事使用人 夫婦數	家事使用人 一夫婦當り出生兒數	其の他有業者 夫婦數	其の他有業者 一夫婦當り出生兒數	合計 夫婦數	合計 一夫婦當り出生兒數	無業 夫婦數	無業 一夫婦當り出生兒數	總合計 夫婦數	總合計 一夫婦當り出生兒數
一年未滿	六六	〇・三	二四	〇・三	四	〇・三	三	〇・三	一五	〇・三	七三	〇・三	四	〇・三	四	〇・三	三	〇・三	一七八	〇・三	三	〇・三	二〇一	〇・三
一年	二三六	〇・六	四三	〇・五	三〇	〇・四	九〇	〇・六	五四	〇・七	二二二	〇・五	二三	〇・五	七二	〇・七	二二	〇・六	五九五	〇・六	九一	〇・六	六八六	〇・六
二年	三二二	〇・九	四六	〇・九	二六	〇・八	九五	〇・九	四五	〇・九	二〇一	〇・八	一五	〇・〇	九六	〇・〇	七七	〇・九	五八八	〇・九	八九	〇・九	六七七	〇・九
三年	一七一	一・三	四〇	一・三	二五	一・三	七九	一・四	二七	一・二	九一	一・二	三	一・三	六六	一・三	四五	一・二	四九七	一・二	七二	一・二	五六九	一・二
四年	一五四	一・六	四一	一・六	二九	一・四	五三	一・七	三	一・五	一五五	一・五	七	一・六	六三	一・五	四三	一・五	四三	一・五	七九	一・四	五〇〇	一・五
五年	一八〇	一・九	四三	一・九	一五	一・五	一〇一	二・〇	三	一・五	一七八	一・八	三	二・〇	七七・一九		四七	二・〇	四九五	一・九	六三	一・九	五五七	一・九
六年	一九八	二・二	三七	二・〇	八	二・一	一六	二・三	二七	二・〇	二三三	一・九	一	二・五	八〇	二・一	七一	一・九	五八二	二・〇	一〇六	二・一	六八八	二・〇
七年	一九一	二・五	三六	二・六	二〇	二・六	一〇二	二・六	三一	二・三	二三三	二・四	一〇	二・四	七四	二・五	四八	二・三	五六六	二・四	九四	二・三	六六〇	二・四
八年	二三三	二・九	四三	二・〇	二〇	二・三	一二四	二・〇	二六	二・六	二四一	二・六	一〇	二・二	八六	二・四	六八	二・二	六八八	二・七	九三	二・四	七二一	二・七
九年	二八八	三・四	三四	二・九	九	三・二	一三五	三・五	二〇	三・二	二二〇	二・八	一四	二・六	七七	三・二	六四	二・六	五六三	二・〇	八四	二・六	六四七	二・九
一〇年	一八二	三・五	四〇	三・七	二	二・四	一〇七	三・六	二五	三・二	一七五	三・二	一四	二・六	六四	三・五	五九	三・一	四九四	三・三	五三	三・一	五四七	三・三
一一—一五年	八〇五	四・二	一六二	四・三	二八	三・五	五四九	四・二	六六	三・六	九四三	三・八	四五	三・二	三一〇	四・二	二四九	三・四	二、三五二	三・九	二七二	三・六	二、六二四	三・九
一六—二〇年	七七一	五・四	一三三	五・六	一六	四・六	五五四	五・五	七七	四・三	九三八	四・七	二六	四・四	二九九	五・六	二四四	四・一	二、二七八	五・〇	二三三	四・三	二、五〇一	四・九
二一—三〇年	八一九	五・五	一二三	五・五	六	三・五	六一五	五・六	八五	四・八	一、五七二	五・三	五四	四・四	四八六	六・〇	三五三	四・六	三、三四六	五・四	二四三	四・五	三、五八九	五・三
三一—四〇年	二六二	五・〇	一九	五・〇	二	二・五	一九二	五・二	四九	四・三	一、二九七	五・三	一五	四・二	四二三	五・六	二六	四・九	二、一三三	五・二	一、二三	四・五	二、二四七	五・二
四一年以上	五七	五・一	五	五・三	一	〇・〇	四七	五・一	六	五・三	六三三	五・二	五	三・六	二二七	五・一	四〇	四・五	九六二	五・一	七二	四・三	一〇三四	五・一
合計	四、六五五	三・七	八四八	三・五	二六一	二・〇	二、九八三	四・一	六〇三	二・九	七、四九四	四・〇	二六八	三・〇	二、五五七	四・四	一、六四三	三・三	一六、六五七	三・九	一、七八一	三・〇	一八、四三八	三・八

以下第四表について簡單な觀察を行はう。

農業者の出產力が初低後高型に屬することは既に述べた處であるが、第四表についても大體同樣のことが謂へる。試みに婚姻持續期間三年をとつてはこの年齡で結婚してゐるのである。從つて二〇—二四歳で結婚したもののみについて觀察することも強ち不都合ではないと云へるであらう。

てみると、一夫婦當り出生兒數は一・二人で、女工、教員、家事使用人、無業の一・三人よりも僅かながら少く、また持續期間一〇年をとつて見ると出生兒數は三・二人で女工及び家事使用人の三・五人よりも少く、總平均

の三・三人に比して僅かに多いといふ狀態であつて、其の出産力は普通に想像される程高いものではない。然るに婚姻持續期間が長くなるに從つて、その出産力は次第に顯著となる。試みに三一—四〇年をとつて見ると、出生兒數は五・三人で家事使用人の五・六人を除けば、有ゆる職業中最も多く、更に四一年以上に於ては出生兒數は五・二人で、紡織工及び其の他女工を除けば最も多く、總平均五・一人以上の出生兒數を示してゐる。當四一年以上といふ持續期間に於ける紡織工及び其の他女工の數は夫々一六人及び六人に過ぎず、その出生兒數が眞實の出産力を表してゐるか否かは疑はしい。假にこれを除外して見れば、持續期間四一年以上に於ては農業者が最高の出産力を示してゐることになる。

次に家事使用人について見るに、先づ婚姻持續期間三年に於ける出生兒數は一・三人で農業者の一・二人及び總平均の一・二人に比して僅かながら多い。持續期間一〇年について見ると、出生兒數は三・五人で紡織工(三・七人)及び製絲工(三・六人)を除けば最も多く、總平均の三・三人に比べても若干多い。比較的短かい婚姻持續期間に於ける家事使用人の出産力は決して低い方ではなく、先づ高い方の部類に入れて差支へないと思はれる。持續期間一〇年以上の比較的長いものについて見ると、家事使用人の出産力は非常に高く、殊に持續期間は二一年以上に於ては極めて顯著である。試みに持續期間二一—三〇年をとつて見ると、出生兒數は六・〇人で他の有ゆる職業に比して飛拔けて多く、總平均の五・三人とも著しい差違が見られる。然るに其れ以上の持續期間に於ては出生兒數は減少し、持續期間四一年以上に於ては五・一人となり、農業者(五・二人)よりも僅かながら少くなつてゐるがしかしそれでも依然として第二位の高い出産力を示して居る。持續期間四一年以上に於ける紡織工の出生兒數が五・三人と家事使用人よりも多いが、この期間に於ける紡織工の數は僅かに一六人に過ぎないから、この分は除外して考へた方が適當であらう。家事使用人の出産力が初高後高型に屬するものであるといふことがこゝでも當嵌るのである。

次に女工であるが、先づ女工を全體として觀察しよう。

例により平均的に見て大體最初の出生兒の生れる頃である持續期間三年をとつて見ると、女工の出生兒數は一・三人で農業者の一・二人よりも多く、家事使用人の一・三人と同數となつて居る。更に大體三人の出生兒の生れる頃である持續期間一〇年をとつて見ると、その出生兒數は三・五人で家事使用人(三・五人)と同じく、總平均の三・三人よりも多い。比較的短かい持續期間に於ける女工の出産力は先づ高い方に屬すると云つて良いであらう。

持續期間一〇年以上に於ても極めて高い出産力を示してゐるが、しかし持續期間一六—二〇年以上となると家事使用人との間に相當の開きを生じて居る。持續期間二一—三〇年をとつて見ると女工の出生兒數は家事使用人の六・〇人に對し五・五人である。尤も農業者が五・三人で女工以下であり、また總平均も五・三人で女工以下であつて、この持續期間に於ける出産力が依然として高いことに變りはない。持續期間三一—四〇年に於ては女工の出生兒數は五・一人で家事使用人(五・六人)及び農業者(五・三人)以下となる。

しかし之等の長い持續期間に於ても女工の出産力は家事使用人及び農業者に次いで依然として高い。そこで初高後高の型はこゝでもまた當嵌るといつて良い。

次に女工の內譯について見る。先づ紡織工の婚姻持續期間三年をとつて見ると、その一夫婦當り出生兒數は一・三人で家事使用人及び教員の一・三

人と等しく農業者の一・二人、總平均の一・二人よりも多い。更に持續期間十年について見ると出生兒數は三・七人で家事使用人の三・五人農業者の三・二人及び總平均の三・三人よりも多く、教員の二・六人、人絹工の二・四人とは雲泥の差がある。持續期間一〇年までの比較的短かいものについて綜合的に觀察して紡織工の出產力が高い方であると云つて良いであらう。持續期間一〇年以上に於ける紡織工の出產力は著しく高く、一六—二〇年までは家事使用人と同一或は多少高くさへある。然しそれ以上の長い持續期間について見ると家事使用人との間に可成り著しい差違を現し、また持續期間三一—四〇年に於ては農業者に追越される。即ち持續期間二一—三〇年について見ると紡織工の出生兒數は五・五人で家事使用人の六・〇人との間に相當大なる開きが見られ、更に持續期間が三一—四〇年となると、五・〇人となり家事使用人の五・六人、農業者の五・三人以下となつて居る。しかし紡織工の出產力は農業者に近似して依然高い方であることには變りはない。初高後高型に入れらるべきものと考へられる。

次に人絹工であるが、二〇—二四歳で結婚した人絹工の數は二六一名と非常に少く、之を更に婚姻持續期間別に見ると各持續期間に於ける其の數は極めて少數となり、持續期間別出生兒數がはたして眞實の出產力を示してゐるか否かは疑はしいが、先づ婚姻持續期間三年について見ると、その出生兒數は一・二人で農業者の一・二人に等しく、家事使用人及び女工の一・三人より僅かながら少い。更に持續期間一〇年をとつて見ると、その出生兒數は二・四人で家事使用人の三・五人、農業者の三・二人、女工の三・五人、總平均の三・三人に比し格段に少い。これより更に長期の持續期間一六—二〇年を取つて見ても、その出生兒數は四・六人で家事使用人の五・六人、女工の五・四人、總平均の四・九人、農業者の四・七人以下である。持續期間がこれ以上に長期となると、觀察數が非常に少くなり、出生兒數も極めて不規則な狀態を示してゐるから、この部分は觀察から除外した方が適當であらう。然し人絹工の各持續期間別出生兒數を綜合的に眺めるならばその出產力が全體として可成り低いものであるといふことは云つて良いと思はれる。人絹女工の出產力はこゝでもまた初低後低型の特徴を示してゐると云へるだらう。

次に製絲工の婚姻持續期間三年について見ると、その出生兒數は一・四人で他の有ゆる職業よりも多い。持續一〇年に於ては三・六人で紡織工の三・七人を除けば最大の出生兒數を示してゐる。持續期間一〇年以上に於ても大體家事使用人と同程度の極めて高い出產力を示して居り、持續期間二一—三〇年及び三一—四〇年に於ては夫々五・六人及び五・二人となつて居り、家事使用人に比して夫々〇・四人少く、また三一—四〇年に於ては農業者の五・三人に比して僅か乍ら少い。四一年以上に於ては家事使用人と等しく五・一人、農業者の五・二人に比して〇・一人と僅かに少い。何れにしても長期の持續期間に於ける製絲工の出產力は家事使用人及び農業者と竝んで高く初高後高の型に入れらるべきである。

次に其の他女工であるが例によつて婚姻持續期間三年をとつて見ると、その出生兒數は一・一人で有ゆる職業中最も少い。更に持續期間一〇年について見るに、出生兒數は三・二人で農業者と等しく家事使用人及び女工の三・五人よりも若干少く、總平均の三・三人よりも僅かに少い。そこで短期の持續期間に於ける其の他女工の出產力は先づ低い方であると見て良い。持續期間一〇年以上に於ける出產力も低い方で、試みに二一—三〇年について見ると、その出生兒數は四・八人で家事使用人の六・〇人女工の五・五人及び農業者の五・三人に比して格段に少く、また總平均の五・三人

とも顯著な差違がある。また持續期間三一—四〇年について見ると、出生兒數は四・三人で家事使用人の五・六人、農業者の五・三人及び總平均の五・二人とは著しい差違がある。かくの如く婚姻持續期間の短期長期ともに其の他女工の出産力は低く、殆三長について云へたと同樣に初低後低の型に屬するものと云ふことが出來る。

次は教員であるが、持續期間三年に於ける出生兒數は一・三人で家事使用人と等しく、農業者の一・二人よりも僅かながら多い。また女工の一・三人とも等しく總平均の一・二人よりも多い。持續期間が稍長い六年といふ處をとつて見ると、その出生兒數は二・五人で家事使用人の二・一人、農業者の一・九人、女工の二・二人、總平均の二・〇人に比して可成り多いことが分る。然るに持續期間が一〇年となると、その出生兒數は二・六人で、家事使用人及び女工の三・五人、農業者の三・二人、總平均の三・三人に比して著しく少く、人絹工の二・四人を除けば有ゆる職業中最も少い。持續期間一〇年以上の比較的長いものに於ける出産力もまた極めて低く、試みに二一—三〇年について見ると出生兒數は僅かに四・四人で、家事使用人の六・〇人、農業者及び總平均の五・三人とは著しい差違があり、人絹工を除けば有ゆる職業中最も少い。持續期間三一—四〇年に於ても、家事使用人の五・六人、農業者の五・三人、總平均の五・二人に對し僅かに四・二人と極めて少い。

かやうに、出産力が短かい持續期間に於て可成り高いに拘らず、長期の持續期間に於て非常に低いといふことが教員の出産力に見られる特異な現象である。教員の出産力はこゝでもまた初高後低の型を現してゐる。尙この型に屬するものは各種の職業中教員のみであるといふことは興味深きことである。

次に其の他有業者であるが、先づ婚姻持續期間三年をとつて見ると、その出生兒數は一・二人で家事使用人、女工及び教員の一・三人より少く、農業者の一・二人と等しく、先づその出産力は低い方であるといへよう。持續期間一〇年について見ても、その出生兒數は三・一人で家事使用人の三・五人、農業者の三・二人よりも少く、また總平均の三・三人にも及ばないといふ狀態で比較的短時の持續期間に於ける出産力は低い部類に入れらるべきものと云へやう。更により長い持續期間について見てもその出産力は低く、持續期間二一—三〇年に於ける出生兒數は四・六人で家事使用人の六・〇人、女工の五・五人、農業者の五・三人、總平均の五・三人に比して著しく少く、教員の四・四人よりも僅かに多いといふ狀態である。更に持續期間三一—四〇年について見ても、出生兒數は四・九人で家事使用人の五・六人、農業者の五・三人、總平均の五・二人に及ばない。其の他有業者の出産力は依然初低後低の型に屬するものと認められる。

最後に無業について見るに婚姻持續期間三年に於ける出生兒數は一・三人で家事使用人、教員、女工と等しく總平均の一・二人よりも多く決して少い方ではない。持續期間一〇年に於ける出生兒數は三・一人で家事使用人及び女工の三・五人、總平均の三・三人、農業者の三・二人よりは少いが教員の二・六人に比べると相當多い。右の如く持續期間三年及び十年のみについて見ると無業の出産力は強ち低い方とは云へないが、四年乃至九年の中間期をも考慮に入れて綜合的に判斷すると、出産力を高低何れかに分類するとすれば、低の方に入れらる可きものと考へられる。持續期間一〇年以上について見るに、大體教員と其の他有業者の中間の出産力を示して居り、矢張り低の部類に入れるのが至當であらう。即ち持續期間二一—三〇年について見ると、出生兒數は四・五人で家事使用人の六・〇人、女工の

五・五人、農業者の五・三人及び總平均の五・三人に比して著しく低く教員の四・四人に近似してゐる。また持續期間三一―四〇年の出生兒數は四・五人で家事使用人の五・六人、農業者の五・三人、總平均の五・二人、女工の五・〇人とも著しい差違があり、教員の四・二人とは餘り差は無い。そこで無業の出産力も又初低後低の型に屬するものと云つて良いだらう。

以上述べた妻の職業別の出産力の特徴を左に取纏めて再記すれば、初高後高型に屬するものとしては家事使用人、女工、紡織工、製絲工があり、初高後低型には教員、初低後高型には農業者があり、初低後低型には人絹工、其の他女工、其の他有業者、無業があり。この出産力の型は先に第三表について述べた處と完全に一致する。

さて各婚姻持續期間について職業別の出産力を比較したのみでは全體としての出産力の差違を簡明に表示することが出來ないから、例によつて婚姻持續期間三一―四〇年に於ける出生兒數が各職業間の出産力の差違を表示して居るものと假定し、出生兒數の多い順に職業名を列擧すれば家事使用人(五・六人)、農業者(五・三人)、製絲工(五・二人)、紡織工(五・〇人)、其の他有業者(四・九人)、無業(四・五人)、其の他女工(四・三人)、教員(四・二人)、人絹工(二・五人)となり、第三表について觀察した處と大體一致する。要するに家事使用人、農業者の出産力は最も高く、製絲工及び紡織工は之等に次いで可成り高い出産力を示して居り、一方人絹工、教員の出産力は最も低く、其の他女工、無業及び其の他有業者は寧ろ人絹工及び教員に近い低い出産力を示して居るといふことになる。

第一表　妻の職業の種類及び從業期間別夫婦度數分布

從業期間	女工 夫婦數	女工 %	紡織工 夫婦數	紡織工 %	人絹工 夫婦數	人絹工 %	製絲工 夫婦數	製絲工 %	其の他 夫婦數	其の他 %	農業者 夫婦數	農業者 %	教員 夫婦數	教員 %	家事使用人 夫婦數	家事使用人 %	其の他有業者 夫婦數	其の他有業者 %	合計 夫婦數	合計 %
一年未滿	一三五	一・五	一七	一・〇	一七	三・九	四四	一・〇	四七	三・六	八一	〇・四	一〇	二・二	一〇六	二・二	六四	一・八	三九六	一・一
一年	四四九	四・一	一三一	八・〇	四五	一二・五	一七〇	三・一	九五	七・三	一三七	一・五	三九	八・五	四三八	一〇・九	一六四	四・六	一四一七	三・九
二年	七三一	八・三	二四〇	一五・四	六六	一四・〇	二六〇	四・八	一四五	一一・〇	二七八	一・五	四〇	六・五	九〇三	一八・七	二一三	六・二	二、一六五	六・〇
三年	八三七	九・五	二四三	一五・六	八五	一八・三	三六〇	六・六	一三九	一〇・七	二五七	一・四	三九	八・五	九四八	一九・五	二〇九	五・九	三、二九〇	六・三

四、妻の職業の種類及び從業期間別出産力

こゝに從業期間といふのは第三節の意味に於ける職業に對する從業期間を意味するものである。尙同種の職業に二回以上從事せる場合には其の從業期間は通算することとした。例へば嘗て家事使用人たりしものが其の後再び家事使用人として從事した場合には家事使用人としての從業期間はこの二つの從業期間を合算したものとなる譯である。從業期間を右の如く定めた場合に、從業期間の長短が出産力の上に如何なる影響を及ぼすかを觀察することが本節の目的である。

本論に入るに先立ち先づ妻の職業の種類及び從業期間別夫婦度數分布について簡單に述べて置かう。

四年	七六	八九	二五	四三	五三	一二八	三八六	七一	二五	八九	二五	一四	二六	六二	七六二	一五八	一六二	四五	一九九三	五五
五年	七一	八七	一七五	一〇七	三九	八九	四五八	八四	九九	七六	二六五	一五	四六	一〇〇	五七一	一二八	一六五	四六	一八三八	四一
六年	六九一	七八	二三九	八五	三〇	六八	四五二	八二	七〇	五四	三三〇	一八	二六	六二	三四〇	七〇	一六五	四六	一五五四	四三
七年	五九五	六七	九八	六〇	二六	六〇	四〇三	七四	六八	五三	三三〇	一八	二三	二四	一九七	四二	一五三	四三	一三六八	三八
八年	六四一	七五	九〇	五五	一四	四一	四七九	八七	五八	四五	三九八	二二	二五	三三	一三六	二八	一六五	四六	一三四六	三七
九年	五五九	六三	五六	三四	一〇	二三	四五二	八三	四一	三二	三五八	二〇	一九	四一	八五	一八	一三二	三七	一一七三	三二
一〇——一四年	一七三	一九四	一五一	九二	三四	一七七	一三八六	二五三	一四二	一〇九	二〇三	一〇九	九五	二〇五	二〇四	四二	五三五	一四七	四五五九	二二五
一五——一九年	四七四	五四	一五	一五	九	二〇	三三三	六二	一〇七	八三	二三七三	二三七	六六	一四二	三八	〇九	四五九	二二三	三三九〇	九三
二〇——二九年	三三一	三七	一〇	〇六	一	〇二	二一〇	三八	一一〇	八五	四四八一	二四一	一七	三七	一四	〇三	六六	一七五	五四六九	一五〇
三〇年以上	一三	一四	五	〇三	二	〇五	六三	一二	五一	三九	六八六〇	三六八	四	〇九	一	—	三八二	一〇七	七三六八	三〇三
合計	八八四	一〇〇·〇	一六三三	一〇〇·〇	四四〇	一〇〇·〇	五四六六	一〇〇·〇	一二九五	一〇〇·〇	二八六二四	一〇〇·〇	四六一	一〇〇·〇	四八三二	一〇〇·〇	三五七四	一〇〇·〇	三六三六	一〇〇·〇

第一表に於て我々は妻の職業の種類と其の從業期間との間に次の如き特色ある事實を認めることが出來る。

先づ家事使用人について見ると、其の著しい特徴は從業期間の短かい者の夫婦割合が他の職業に比して非常に高く、この反面として從業期間の長いものの割合が著しく低いといふことである。卽ち從業期間二年乃至五年の夫婦割合は極めて高く、これのみで全體の五四%を占めて居るが、これ以上の從業期間となると割合は急速に減少し、從業期間九年以上の比較的長い期間となると、その割合が有ゆる職業中最も低い。かゝる家事使用人の從業狀態を假に短期從業型と呼ぶならば、この型に入るべきものとしては人絹工、紡織工を擧げることが出來る。この二つは家事使用人程には著しくないが、同じく從業期間二年乃至四、五年にかけて著しい夫婦の集中を示して居り、其れ以上の長い從業期間に於て割合は急激に減少し、九年以上では家事使用人に次いで最も少い分布を示してゐる。

次に農業者は、從業期間別の夫婦度數分布が從業期間の長短とも略々均一であるといふ他の職業に比して著しい特徴を有してゐる。そこで農業者を他の職業と比較すると、從業期間の短期な夫婦割合が非常に低く、從つて長期のものの割合が著しく高いといふことになる。特に從業期間三〇年以上の割合は壓倒的に高い。農業者について見られるかゝる特色を均一從業型と呼ぶならば、其の他有業者もまた大體この型に入るものと見られる。其の他有業者は農業者に比し短期及び中期(大體一四年以下)の分布が多少高く、長期(略一五年以上)の分布が低くなつてゐるが、從業期間別の夫婦の分布狀態は比較的均一化されてゐるので農業者と同一型に入れて良いであらう。

次に製絲工の度數分布は四年以上一〇年未滿にわたるなだらかな山を中心として比較的長期の方にも廣く分散してゐる點に特色があり、之を假に中期從業型と呼ぶことにする。

其の他女工及び教員は短期及び中期にも相當の分布が見られるから先づ短期從業型と中期從業型の中間型を示してゐると見ることが出來るが、そ

の中でも其の他女工は寧ろ短期從業型に近く、教員は稍中期從業型に近い型を有つものと云へやう。

次に女工を全體として見ると多少短期型を帶びた中期型を呈してゐるが、之は製絲工の數が他の女工に比して壓倒的に多いために、製絲工の中期型が強く影響したためと解される。

さて以上の如く職業の從業期間の型は職業の種類によつて著しい差違があるのであるが、これが職業活動と結婚生活との間の調和の難易と關聯のあることは容易に想像される。例へば農業といふ妻の職業活動は結婚生活と兩立し易い性質のものであるが、其の從業期間は均一型であり、家事使用人の如く一般に他人の家に住込みで勤務することの多い職業は概して結婚生活と兩立し難いものであつて短期從業型となり、また教員の如く職業と結婚生活とが必ずしも兩立し難いものではないといふものは中期型を採るといふ風に、職業の種類と從業型の間には密接な關係があるやうに思はれる。また從業期間の型と職業別婚姻年齢との間にも何等かの關聯があるものと考へられるが概說を目的とする本稿に於ては之等の稍立入つた事項についての記述は、別の機會に讓ることにする。

さて本論に立返へり、職業の種類、從業期間及び婚姻持續期間別夫婦數竝に一夫婦當り出生兒數竝に一夫婦當り出生兒數を示せば、第二表イ、ロ、ハの如くである。尙從業期間は五年未滿、五—九年及び一〇年以上の三區分で可成り粗いが、觀察數の關係から餘り細分するのは不適當と認めたからである。

第二表　妻の職業の種類、從業期間及び婚姻持續期間別夫婦數竝に一夫婦當り出生兒數

イ、從業期間五年未滿

婚姻持續期間	女工 夫婦數	女工 一夫婦當り出生兒數	女工内譯 紡織工 夫婦數	紡織工 一夫婦當り出生兒數	人絹工 夫婦數	人絹工 一夫婦當り出生兒數	製絲工 夫婦數	製絲工 一夫婦當り出生兒數	其の他 夫婦數	其の他 一夫婦當り出生兒數	農業者 夫婦數	農業者 一夫婦當り出生兒數	教員 夫婦數	教員 一夫婦當り出生兒數	家事使用人 夫婦數	家事使用人 一夫婦當り出生兒數	其の他有業者 夫婦數	其の他有業者 一夫婦當り出生兒數	有業者合計 夫婦數	有業者合計 一夫婦當り出生兒數
一年未滿	四四	〇・三	一六	〇・三	六	〇・三	三	〇・三	一〇	〇・二	八五	〇・二	四	〇・三	三	〇・二	一九	〇・三	一八四	〇・三
一年	一五七	〇・六	三〇	〇・七	三一	〇・五	四四	〇・六	四三	〇・六	二九九	〇・六	一〇	〇・四	七四	〇・七	九二	〇・六	五六二	〇・六
二年	一五〇	〇・八	四〇	〇・八	二四	一・〇	三八	〇・九	四八	〇・八	二三五	〇・八	一六	〇・九	六六	一・〇	八八	〇・八	五五五	〇・八
三年	一〇四	一・三	二四	一・五	二六	一・二	二三	一・三	三一	一・三	一九五	一・一	五	一・〇	七四	一・三	五八	一・〇	四三六	一・三
四年	一二三	一・四	三五	一・六	二四	一・四	一八	一・六	二六	一・三	一五四	一・三	二	一・五	六八	一・五	五七	一・四	四〇四	一・四
五年	一二三	一・九	二九	二・一	一九	一・五	二五	二・一	二〇	一・五	一・五	一・三	三	二・〇	七七	一・八	三二	一・八	二四〇	一・八
六年	二二二	二・二	二四	二・二	二二	二・一	四〇	二・三	二六	二・二	一・九	二・二	二	三・〇	八六	二・〇	四二	二・二	二六四	二・二
七年	二九	二・五	四七	二・七	二六	二・五	四〇	二・六	二六	二・二	二三	一・九	六	二・五	七二	二・五	三二	二・二	二六〇	二・四
八年	二二	二・九	二七	二・七	二三	二・六	四七	三・三	二六	二・六	八	二・〇	五	一・八	八九	三・〇	二九	二・三	二五二	二・八
九年	八〇	二・八	二〇	二・八	五	二・四	四一	二・八	一四	二・七	六	三・七	五	二・八	七九	三・三	一八	二・三	一八八	三・〇

婚姻持續期間	女工 夫婦數	女工 一夫婦當り出生兒數	女工 内譯 紡織工 夫婦數	紡織工 一夫婦當り出生兒數	人絹工 夫婦數	人絹工 一夫婦當り出生兒數	製絲工 夫婦數	製絲工 一夫婦當り出生兒數	其の他 夫婦數	其の他 一夫婦當り出生兒數	農業者 夫婦數	農業者 一夫婦當り出生兒數	教員 夫婦數	教員 一夫婦當り出生兒數	家事使用人 夫婦數	家事使用人 一夫婦當り出生兒數	其の他有業者 夫婦數	其の他有業者 一夫婦當り出生兒數	有業者合計 夫婦數	有業者合計 一夫婦當り出生兒數
一年未滿	四三	〇・三	一〇	〇・一	一	〇・〇	二七	〇・三	五	〇・二	三	〇・一	四	〇・〇	四	〇・三	一〇	〇・二	八四	〇・三
一年	一五五	〇・五	四三	〇・四	一四	〇・六	七〇	〇・五	二六	〇・六	充	〇・五	七	〇・七	五七	〇・六	二六	〇・七	三〇四	〇・六
二年	一四八	〇・八	三五	〇・九	一七	〇・六	八一	〇・八	一五	〇・一	充	〇・八	九	〇・一	四七	〇・九	四三	〇・八	三六	〇・八
三年	二七	一・二	二七	一・二	七	一・〇	七〇	一・三	一六	一・二	六一	一・三	一〇	一・二	三四	一・二	三三	一・二	二六四	一・二
四年	八八	一・五	三一	一・七	八	一・四	三六	一・五	三	一・四	五一	一・四	八	一・四	七	一・四	一九	〇・七	二〇三	一・四
五年	一三三	一・八	一五	一・八	六	一・七	九二	一・九	九	一・四	一六	一・七	一一	一・九	三八	一・九	五二	一・九	四五〇	一・八
六年	二八	二・一	三二	二・〇	七	一・四	七九	二・三	二〇	一・九	二六七	一・九	二一	二・一	四六	二・二	六六	一・九	五九〇	二・〇
七年	二九	二・四	二五	二・三	七	一・七	八三	二・六	二四	二・三	二九四	二・二	八	二・二	四四	二・二	五三	二・二	五三〇	二・二
八年	二九	二・七	二五	二・六	一〇	二・八	一〇三	二・九	二四	二・〇	二七三	二・五	一〇	二・五	四〇	二・五	七四	二・四	五四七	二・六
九年	一四八	三・三	一三	三・〇	三	二・七	一〇七	三・五	一五	二・八	四〇	二・六	三	二・七	四〇	二・六	四一	二・六	四八〇	二・六
一〇年	二八	三・五	三三	三・四	一〇	三・八	八〇	三・五	一六	二・八	二六	二・七	四	二・六	二四	二・六	一四	二・六	二七〇	二・六
一一—一五年	二四一	四・二	四一	四・二	一九	四・二	一四七	四・三	二一	三・一	二四一	三・一	一一	三・〇	二四	三・〇	一四	三・〇	一五三	三・〇
一六—二〇年	五五一	五・三	一六七	五・五	一二	五・〇	二一八	五・三	七五	四・七	三六	四・四	二〇	五・二	四八	四・八	二一	四・〇	二六四	四・〇
二一—二五年	五二一	五・六	一四九	五・八	八	六・一	二八三	五・六	八一	五・二	四五	四・八	二九	五・四	八〇四	六・一	七八	五・一	一〇五四	五・三
二六—三〇年	一三七	五・八	三	五・〇	二	二・五	一〇二	六・一	二	四・八	一四	四・〇	一六	五・六	五三三	六・一	一四	六・〇	七二四	六・〇
三一—三五年	四四	五・七	四	五・三	〇	〇	三八	五・八	二	四・五	一〇	三・六	一	三・〇	二七〇	五・九	八	四・一	三五〇	五・七
三六—四〇年	一九五	三・七	八四	三・九	二七五	二・二	二、三〇〇	四・三	五四九	二・八	一、一〇八	一・四	三四六	一・四	三三五	四・八	二、二六一	三・七
四一年以上	二、九三八	三・七	八八四	三・九	二七五	二・二	二、三〇〇	四・三	五四九	二・八	一、一〇八	一・四	三四六	一・四	三三五	四・八	二、二六一	三・七
合計	三、三五七	三・七	一、五五八	三・二	二一九	一・九	二、二四四	四・一	三三六	三・〇	一、七八〇	二・三	一三三	二・四	一、二九九	四・三	七八〇	二・七	七、二七九	三・四

（ロ）從業期間五—九年

（八）　從業期間一〇年以上

婚姻持續期間	女工 夫婦數	女工 一夫婦當り出生兒數	女工内譯 紡織工 夫婦數	紡織工 一夫婦當り出生兒數	人絹工 夫婦數	人絹工 一夫婦當り出生兒數	製絲工 夫婦數	製絲工 一夫婦當り出生兒數	其の他 夫婦數	其の他 一夫婦當り出生兒數	農業者 夫婦數	農業者 一夫婦當り出生兒數	教員 夫婦數	教員 一夫婦當り出生兒數	家事使用人 夫婦數	家事使用人 一夫婦當り出生兒數	其の他有業者 夫婦數	其の他有業者 一夫婦當り出生兒數	有業者合計 夫婦數	有業者合計 一夫婦當り出生兒數
一年未滿	一九	〇・三	二	〇・〇	〇	〇	一四	〇・二	三	〇・〇	四四	〇・三	二	〇・〇	一	〇・〇	四	〇・三	七〇	〇・三
一年	八三	〇・六	一〇	〇・三	〇	〇	六九	〇・七	四	〇・五	九二	〇・五	四	〇・二	一五	〇・六	一五	〇・四	二〇九	〇・六
二年	九二	〇・九	一五	〇・七	一	〇・〇	七二	〇・九	四	〇・五	九五	一・一	六	〇・五	七	〇・六	一九	〇・六	二一九	〇・九
三年	九〇	一・三	九	一・四	〇	〇	七八	一・三	三	〇・三	九四	一・二	六	〇・七	一四	〇・六	二〇九	一・二	二〇九	一・二
四年	六四	一・六	九	一・二	〇	〇	五四	一・七	一	一・〇	七四	一・四	五	一・二	七	一・四	一五五	一・五	一五五	一・五
五年	九一	一・七	八	一・六	一	一・〇	七〇	一・七	二	一・〇	一三〇	一・八	三	一・七	五	一・六	一〇〇	一・〇	一三四	一・七
六年	六八	二・四	八	二・四	〇	〇	五五	二・五	五	一・〇	一三〇	二・〇	七	二・〇	九	〇・九	一〇	一・〇	一三一	二・一
七年	八四	二・三	七	二・一	三	一・二	六七	二・四	七	二・六	一四八	二・四	八	二・一	四	二・三	一九	二・七	二七三	二・三
八年	八八	二・九	一〇	三・三	一	一・〇	七二	二・九	五	三・〇	一八四	二・五	七	三・〇	四	二・八	一七	一・八	三〇〇	二・六
九年	九〇	三・〇	六	三・三	三	三・三	七六	三・一	五	二・二	一九四	二・六	三	二・三	四	〇・五	二七	二・一	三二七	二・六
一〇年	七六	三・二	九	二・四	四	三・五	四九	三・四	一四	二・七	三五六	三・〇	一四	一・九	四	二・〇	四三	二・四	四九三	二・九
一一—一五年	四九二	三・七	一七	四・〇	一三	三・三	三七九	三・八	七三	三・五	二、一七〇	三・六	二九	二・九	三三	三・三	三〇三	三・〇	三、〇三七	三・六
一六—二〇年	五〇一	四・四	二六	四・〇	一二	四・三	三八三	四・五	八一	三・七	二、三八七	四・六	二六	三・四	三一	四・一	三六六	四・〇	三、三二一	四・五
二一—二五年	五四六	四・四	二五	三・八	五	二・六	三九三	四・六	一三三	四・一	四、四六二	五・二	三〇	三・六	六一	四・三	六七四	四・五	五、七七四	五・一
三一—四〇年	三〇三	四・六	七	三・四	三	五・七	一二九	四・六	六四	四・七	三、三八一	五・四	九	四・三	四七	四・四	二六七	四・五	三、八三六	五・三
四一年以上	五二	四・六	三	六・〇	一	〇・〇	三三	四・三	一六	五・三	一、九〇五	五・六	四	二・三	三三	五・一	一三五	五・〇	二、一一八	五・六
合計	二、六三九	三・五	一九一	三・七	四六	三・三	一、九九二	三・五	四〇	三・七	一五、七三六	四・七	八三	二・六	二五七	三・五	一、九七二	三・九	二〇、七八六	四・四

さて從業期間別出產力の觀察に當つては次の二つの方法がある。第一の方法は同一職業について、從業期間別に出產力を觀察する方法であり、第二の方法は同一の從業期間について異なる職業間の出產力を比較する方法である。以下先づ第一の方法から始め、之に續いて第二の方法について簡單に說明をすることにする。

從業期間が五年未滿から五—九年更に一〇年以上と次第に長くなるに從つて同一職業について、其の出產力の上に如何なる變化が生ずるかといふことを先づ女工から極めて簡單に觀察しよう。

結論を先に述べると、女工に於ては婚姻持續期間が一〇年以下の場合には餘り差違が認められないが、それが一〇年以上と長くなると、從業期間

の最も長い一〇年以上のものの出産力は極端に低いが、五年未満と五—九年のものとの間には殆ど差違がないといふ結果となつて居る。婚姻持續期間一六—二〇年以上に於ては從業期間一〇年以上のものと五年未満及び五—九年との間には一子内外の大きな開きがある。各婚姻持續期間について細かな比較をすることは却つて結果を不明瞭ならしめる恐れがあるから、例によつて婚姻持續期間三一—四〇年に於ける一夫婦當り出生兒數が夫々の集團の出産力の差違を正しく表現して居ると假定すると、この持續期間に於ける從業期間一〇年以上のものの出生兒數は四・六人に過ぎないが、五年未滿のものが五・八人、五—九年が五・六人となつて居り從業期間が長期となるに從つて出生兒數が減少してゐることが分る。尚第三節第三表に於て女工の婚姻持續期間三一—四〇年に於ける一夫婦當り出生兒數は五・三人であつたから、之と比較して從業期間一〇年以上のものの出産力が如何に低いかが分る。

次に女工の内譯について見ると、紡織工についても女工と同樣のことが云へるのである。尤も紡織工に於ては總數の内從業期間五年未滿のものが過半數を占めて居り、五—九年となると相當少くなり、特に一〇年以上從業したものは非常に少く五年未滿の四分の一以下である。從業期間五年未滿の統計數値は比較的滑かな曲線を描くのであるが、五—九年となると稍〻不規則となり、一〇年以上となると非常に不規則となる。從つて從業期間別の出産力を正確に比較することは出來ないが、有ゆる婚姻持續期間について綜合的に判斷すると、女工全體についてと同樣のことが云へる。持續期間一六—二〇年以上について見ると從業期間一〇年以上のものと、五年未滿及び五—九年のものとの間には出生兒一・五人程度の非常に大きな開きが見られる。例によつて婚姻持續期間三一—四〇年をとつて見ると、從業期間一〇年以上のものの出生兒數は僅かに三・四人であるが、五年未滿は五・〇人、五—九年は五・七人となつて居る。五年未滿の出生兒數が非常に少いが、こゝでは觀察數が極端に少數となつてゐるから、そのための偶然的結果であらう。全婚姻持續期間について綜合的に判斷すると從業期間五年未滿と五—九年との間には餘り差は無く、强ひて差をつければ五年未滿のものの出産力が全體として若干高いやうに思はれる。第三節第三表の持續期間三一—四〇年の出生兒數四・九人は其の前後の持續期間に比べて已に異常に低いのであるが、之に比較してさへ從業期間一〇年以上のものの出生兒數(三・四人)は一・五人も少いのであつて、從業期間が長くなつた場合紡織工の出産力が如何に低いかが分る。

次に人絹工はたゞさへ少數の上、之を更に從業期間別、婚姻持續期間別に觀察するとなると、結果は非常に不規則となり、それから一般的な特徴を摑むことは困難であり、人絹工については明確なる結論を得難いが、示された結果を大觀すると矢張り五年未滿の出産力が最高であることが推測出來る。試みに比較的觀察數の多い婚姻持續期間一一—一六年について見ると、出生兒數は從業五年未滿が三・八人、五—九年が三・一人、一〇年以上が三・三人で五年未滿の出生兒數が最も多い。

製絲工は女工中で最も多數であり、從業期間別の出生兒數も相當滑かな曲線を描いて居るから結果は先づ信頼して良いものと考へる。製絲工についても紡織工と全く同一の事が云へるのであつて、比較的長期の、特に一六—二〇年以上の婚姻持續期間に於ては從業期間一〇年以上のものと其の他のものとの間には出生兒數一人内外の大きな開きが見られる。婚姻持續期間三一—四〇年について見ると從業期間一〇年以上の一夫婦當り出生兒數は四・六人であるが、五年未滿は六・一人、五—九年は五・八人となつてゐ

る。第三節第三表の該當數値(單純なる婚姻持續期間別一夫婦當り出生兒數)は五・五人であるから、之と從業期間一〇年以上のものとの間には約一人の大きな開きがあることになる。從業期間五年未滿のものと五—九年のものとの間には餘り差は無く大體同程度の出產力と見て良いであらう。

次に其の他女工は、觀察數が少く、人絹工程ではないが、非常に不規則な結果を示してゐる。しかし全ての婚姻持續期間について綜合的な判斷を下すと、矢張り從業期間一〇年以上のものの出產力が最も低いことが推察出來る。婚姻持續期間二一—三〇年について見ると從業期間五—九年及び五年未滿のものの出生兒數は夫々五・三人及び五・二人で餘り差違は無いが、從業一〇年以上のものは四・一人で前二者とは非常に大きな開きがある。尙第三節第三表の該當數値は四・七人で、從業期間一〇年以上のものよりも可成り多い。

次に家事使用人であるが、家事使用人に於ては從業一〇年以上といふのは非常に少數で五年未滿が斷然多く、全體の七割近くを占めて居る。そして婚姻持續期間一〇年以下に於ては從業期間一〇年以上及び五—九年について可成り不規則な數値の動きを示してゐる部分が見られるが婚姻持續期間一一—一五年以上は可成り規則正しい曲線を描いて居り、長期の持續期間に於ける結果については先づ相當に信賴を置いて良いやうである。一一—一五年以上の比較的長期の婚姻持續期間に於ては從業期間一〇年以上と五年未滿及び五—九年のものの出產力との間には著しい差違が見られる。また五年未滿と五—九年の間にも明瞭な差違が認められ、五年未滿のものの出生兒數は五—九年のものに比して大體〇・四人程度多い。持續期間三一—四〇年に於ては、從業期間一〇年以上のものの出生兒數は四・四人、之に對し五年未滿は六・一人、五—九年は五・六人となつて居る。第三節の該當數値は五・九人であつて、從業期間一〇年以上のものとの間には一・五人の大きな開きがある。

次に農業者であるが、これは既に述べた各職業とは正に逆の傾向を示して居り、從業期間の長期のものの方が却つて高い出產力を示してゐるのである。尤も五—九年及び一〇年以上との間には左程大きな差はない。試みに婚姻持續期間三一—四〇年について見ると、從業期間五年未滿の出生兒數は四・〇人、之に對し五—九年が四・九人、一〇年以上が五・四人となつて居る。また第三節の該當數値は五・五人であるから從業期間五年未滿のものの出產力が如何に低いかが分る。

次に敎員は、觀察數が極めて少數のために結果は著しく不規則であるが、全體を大觀して、矢張り從業期間の長くなる程出產力が低下してゐることが推察出來る。試みに比較的觀察數の多い、婚姻持續期間二一—三〇年について見ると、出生兒數は從業五年未滿が五・四人、五—九年が三・九人、一〇年以上が三・六人であり、また婚姻持續期間一六—二〇年について見ると、從業五年未滿の出生兒數は五・二人、五—九年が三・八人、一〇年以上が三・四人となつてゐる。尙第三節の該當數値は四・四人及び四・一人であつて從業期間五年未滿のみがこの平均値を超えてゐるに過ぎない。

最後に其の他有業者について見るに、矢張り一般と同樣のことが云へるのであつて、婚姻持續期間三一—四〇年について見ると、出生兒數は從業五年未滿が六・〇人、五—九年が五・六人、一〇年以上が四・五人となつて居る。また婚姻持續期間二一—三〇年について見ても五年未滿が五・一人、五—九年が四・六人、一〇年以上四・五人となつて居り、出生兒數は從業期間の短かいもの程多いことが認められる。尙第三節の該當數値は四・七人及び四・六人で從業期間一〇年以上のものは何れも此の平均以下である。

以上を要するに同一職業について、其の從業期間が長くなるに從つてその出産力が如何に變化するかを見るに、農業者を唯一の例外として、總て從業期間の長いものの出産力が低下せることを知るのである。尤も從業期間五年未滿と五—九年との間には餘り著しい差は無いが、少くとも五年未滿と其れ以上との間にはかゝる事實が極めて明瞭に見られるのである。

以上は同一職業について、從業期間が異なるに應じて出産力が如何に變化するかを觀たのであるが、次に第二の方法として同一の從業期間について各職業間の出産力の差違を極めて簡單に觀察しよう。已に述べた第一の方法はいはば縱の比較であり、之から述べる第二の方法は横の比較とも云ふことが出來やう。

先づ從業期間五年未滿について見ると、農業者の出産力が有ゆる婚姻持續期間を通じて最も低く、特に一一年以上の比較的長期の婚姻持續期間に於て極めて低いことが注目をひく。持續期間三一—四〇年をとつて見ると出生兒數は僅かに四・九人で第二節の該當數値五・四人に比して〇・五人の大きな開きを示してゐる。第二節に於ては、農業者の出産力は家事使用人に次いで最も高いといふことを述べたのであるが、然し農業者を更に從業期間別に分類して觀察すると、從業期間が五年未滿といふ短期のものに於ては其の出産力が極めて低いことを知るのである。しかし從業期間が五年未滿、しかも婚姻持續期間一一年以上といふ如きものは、農業に五年未滿從業した以外は、長く無業であつたものであつて、吾々が普通に考へるやうな本格的農業者とは餘程性質を異にするものである。第二節に於ける農業者の内には勿論かゝる種類のものが農業者として含まれて居る譯であるが、農業者を更に從業期間別に分類すると、從業五年未滿には右に述べたやうな特殊のものが特に分離集中されて、かゝる結果を來せるものと思はれる。

次に家事使用人について見るに、其の出産力は有ゆる婚姻持續期間を通じて一般に極めて高く、特に持續期間一六—二〇年以上に於ては常に全職業中の最高の出産力を示してゐる。從業期間が五年未滿と比較的短かい場合には家事使用人の出産力は極めて高いといふことが出來る。試みに婚姻持續期間三一—四〇年について見ると、その出生兒數は六・一人で平均値と見られる第三節の單純なる婚姻持續期間別出生兒數五・九人に比して若干多くなつてゐる。

次に女工は婚姻持續期間一六—二〇年までは大體家事使用人と同程度の出産力を示してゐるが、それ以後は常に多少とも劣つてゐるが全體として依然高い出産力を示して居る。持續期間三一—四〇年に於ける出生兒數を第三節と比較すると前者の五・八人に對し後者は五・三人であり、短期從業の女工の出産力は女工全體の平均よりも高いことが分る。

教員については觀察數過少のため餘り明確な結果は出てゐないが、比較的長期の持續期間に於ける出産力が第三節の結果に比較して案外低くないことに氣付くのである。持續期間三一—四〇年の出生兒數は五・六人で第三節の該當數値四・七人に比し一寸近くの大きな開を示してゐる。また持續期間二一—三〇年について見ても、本表の五・四人に對し第三節第三表の四・一人と矢張り從業五年未滿のものの出生兒數の方が平均値よりも非常に多くなつてゐる。そこで輕々しく斷定することは出來ないが、從業期間が五年未滿と比較的短かい場合には教員の出産力もそれ程低くないのではないかといふことが推測される。さうは云つても教員の出産力が家事使用人及び女工等に比べて依然として相當に低いことに變りはない。

其の他有業者の出産力は婚姻持續期間の比較的短期なものに於ては農業

者よりも若干高い程度、比較的長期のものに於ては大體教員と類似のものと見てよいであらう。婚姻持續期間三一—四〇年について見ると出生兒數は六・〇人となつて居り、家事使用人と女工の中間にあつて非常に多いが、然しこの持續期間に於ては觀察數は僅かに二四に過ぎず、この持續期間の前後の狀態から判斷して、これが眞實の出產力を表示してゐるとは考へ難い。第三節に於ける數値も五・四人となつて居る。かれこれ考慮に入れて、其の他有業者の眞實の出產力は先づ教員程度のものではないかと想像される。

次に女工の內譯について見るに、紡織工の出產力は婚姻持續期間の短期及び中期を通じて略、家事使用人に近く可成り高いものであるが、たゞ持續期間一六—二〇年以後は家事使用人に比して相當劣ることが分る。しかし劣るといつても他の職業に比べれば依然高いものである。婚姻持續期間三一—四〇年に於ける出生兒數は觀察數過少のためか不自然に少く五・〇人であるが、しかも第三節の該當數値四・九人よりは多い。

人絹工については觀察數過少のため明確には云へないが、有ゆる持續期間を通觀して、其の出產力は短期及び長期とも可成り低いやうに判斷される。

次に製絲工の出產力は婚姻持續期間一一—一五年までは大體家事使用人及び紡織工と同程度に高いが一六—二〇年以上に於ては家事使用人に比し相當の開きを生ずる。しかし依然家事使用人に次いで最も高い方であり、大體紡織工と相似た狀態を示して居る。持續期間三一—四〇年に於ける出生兒數は六・一人で第三節第三表の五・五人よりも可成り多い。

其の他女工の出產力は有ゆる持續期間を通じて一般に極めて低いことが認められる。婚姻持續期間三一—四〇年に於ける出生兒數は四・八人で家事使用人に比して一・〇人以上の大きな開きがある。しかしこれを第三節第三表の數値四・五人に比べると僅かながら多いのである。

以上を要するに從業期間が五年未滿と短かい場合に於ては職業別出產力の狀態に關して第三節第三表について述べた事が大體當嵌るといふことが出來るのである。婚姻持續期間三一—四〇年に於ける出生兒數の順に職業名を竝べると、家事使用人、製絲工、其の他有業、教員、紡織工、其の他女工、農業の順であり、第三節の結果とは、機械的に見たならば完全には一致しないが、しかし上に述べた諸事情を考慮に入れて綜合的に判斷すると大體一致するものと見てよいと思はれる。卽ち家事使用人、製絲工、紡織工の出產力は高く、教員、其の他有業、其の他女工、人絹工の出產力は低い部類に入るものと云つて良い。但し農業者のみは例外で、これが例外であるのはこゝに農業者として表章されてゐるものの中に、いはば農業者らしくない農業者を多數含む結果であると考へられる。

第二に從業期間五年未滿のものの出產力が一般に第三節第三表の云はば平均値よりも高いといふことは注目すべき現象であるが、これについては既に述べた。

以上は從業期間五年未滿のものについて觀察したのであるが次に、從業期間が五—九年となつた場合に職業別出產力に如何なる變化が見られるかを觀察しよう。

從業期間が五年未滿から五—九年と長くなると各職業の出產力が全體として低下することは既に述べた通りであるが、職業別出產力の相對的地位にも變化が生じて來る。

先づ目立つ事は農業者の出產力の狀態である。農業者の出產力が婚姻持續期間一〇年位までは依然として低いが、持續期間が長くなるに從つてそ

の出産力は從業五年未滿の場合に比して絶對的にも相對的にも良好となり、家事使用人、女工との差を縮めて行き、殊に持續期間四一年以上に於ては遂に家事使用人を追越し、女工に迫つてゐることは著しい特色である。しかし婚姻持續期間全體として見るとき農業者の出産力は家事使用人及び女工とは可成りの遜色があると云はなければならない。例によつて持續期間三一—四〇年をとつて見ると、農業者の出生兒數は四・九人で家事使用人及び女工の五・六人とは可成りの開きが認められ、また第三節の該當數値五・六人とも相當の差違のあることが分る。

次に注目すべき點は家事使用人及び女工ともに依然高い出産力を示してゐるが從業期間五年未滿或は又第三節第三表に於けるのとは異なり、長期の持續期間に於ける兩者の出産力の差違が非常に僅少のものとなつて居り、持續期間四一年以上に於ては女工の出産力が却つて家事使用人よりも高いといふことである。そしてかゝる接近が主として、家事使用人の側に於ける出産力の低下によるものであることは注目すべきことである。先にも一言せる如く、かゝる現象には恐らく職業活動と結婚生活との調和の難易の問題が影響してゐるものと想像される。試みに從業期間五年未滿のものについて見ると、婚姻持續期間三一—四〇年の家事使用人の出生兒數は六・一人であるが、從業期間が五—九年となると、それは四・八人と甚だしく減少してゐる。一方女工に於ては該當數値は夫々五・八人及び五・六人で餘り差は無く、家事使用人と女工の出産力の接近が主として家事使用人の側に於ける出産力の低下によることが分る。

次に女工の內譯について見ると、紡織工の出産力が依然として高い。婚姻持續期間三一—四〇年に於ける出生兒數は五・七人で家事使用人、女工よりも却つて多い。從業期間五年未滿及び第三節第三表に於ては家事使用人の出産力は紡織工よりも遙かに高かつたのである。なほ從業期間が五年未滿から五—九年となつても紡織工の出生兒數の絶對値は餘り變化なく、從つて紡織工の地位の上昇は主として家事使用人の側の出産力低下によることは女工全體についてと全く同一である。

次に製絲工は全職業中最高の出産力を示して居り、婚姻持續期間三一—四〇年に於ける出生兒數は五・八人で紡織工、家事使用人よりも多い。尤も出生兒數の絶對値は從業期間五年未滿の六・一人に比して若干少くはなつてゐる。

次に從業期間五—九年の人絹工の數は極めて少數であり、特に長期の婚姻持續期間に於てそうであつて、統計數値は甚だ不規則な動きを示して居るから、そこから結論を摑み出すことは困難であるが、婚姻持續期間全體を通觀して、その出産力が他の職業に比して著しく低いことが想像される。試みに婚姻持續期間二一—三〇年について見ると、その出生兒數は僅かに四・〇人で教員の三・九人に次いで最も少い。

其の他女工も人絹工と同樣の理由で、現れた結果は非常に不規則であるが、これまた低い出産力の部に入れて良いであらう。比較的觀察數の多い持續期間二一—三〇年について見ると、出生兒數は五・三人で家事使用人、製絲工、紡織工とは相當著しい差がある。

次は教員であるが、これまた觀察數過少のために結果は著しく不規則ではあるが、各持續期間を大觀するならば、その出産力が有ゆる職業中で最も低い部類に入るといふことが判斷される。觀察數の比較的多い持續期間二一—三〇年について見ると、出生兒數は三・九人で有ゆる職業中の最低である。

最後に其の他有業であるが、これまた從業期間が五年未滿から五—九年

となると共に出産力は若干低下して居るが、その低下が比較的輕微である結果として、他の職業に對する相對的地位には餘り變動はないが依然低出産力の部類に屬する。試みに觀察數の比較的多い、婚姻持續期間二一—三〇年について見ると、その出生兒數は四・六人で教員の三・九人と農業者の五・二人の中間にあり、家事使用人の五・八人とは一・二人と極めて大なる差がある。

以上を要するに、從業期間五—九年に於ける、各職業別出産力の相對的地位の變化としては農業者の地位が上昇したことと、家事使用人の地位が低下したといふ二點が特に目立つのである。

從業期間が五—九年から一〇年以上と長くなると、農業者、女工及び其の他有業者を除き、各職業別の夫婦數は極めて少くなり、結果も可成り不規則となるから、大きな特徴について簡單に述べるに止める。先づ第一に農業者を除く他の職業の出産力が從業期間五—九年に比して全般的に低下する結果として農業者の地位が著しく高まることが特に注目を惹く點であつて、婚姻持續期間三一—四〇年に於ける農業者の出生兒數は五・四人なるに對し、女工四・六人、其の他有業四・五人、家事使用人四・四人及び教員四・二人で、農業者との間に〇・八人から一・二人までの大きな開きが見られる。農業者の地位の上昇せる反面、女工及び家事使用人の地位の低下せることは誠に顯著な事實であつて、農業者と家事使用人及び女工の地位は正に轉倒して居るのである。

以上横の比較から得られた結果の要點をこゝに再述すれば、農業者の出産力の相對的地位は從業期間の長期となると共に上昇するといふこと、從業期間の長期化に伴ふ出産力の相對的地位の低下は家事使用人に於て最も甚だしく、家事使用人に次いでは女工に於て甚しいといふことが最も顯著な現象である。

其の他詳細に見ると種々の特徴が見られるが、全體として觀察數が十分でなく、また職業によつて夫婦數に著しい差違があるから、詳細にわたる事項についてはこゝに言及するのを差控へて置く。